

1. 概要

- 世界中のESD実践者にとって、より良い取組に挑戦する動機付けと、優れた取組を世界中に広めることを目的として、我が国の財政支援により、ユネスコが、**ESD活動に取り組む機関または団体**が実施する優れたプロジェクトを表彰するもの。（2014年ESDユネスコ世界会議において創設を発表、2015年～2019年までは毎年実施、それ以降は隔年実施）。
- 「ESD for 2030」枠組みの優先行動 5 分野
 1. 政策の推進
 2. 学習環境の変革
 3. 教育者の能力構築
 4. ユースのエンパワーメントと動員
 5. 地域レベルでの活動の促進のうち、一つ以上の分野でESD活動に取り組んでいる機関または団体が実施する、ESDに関する優れた事業を表彰。
- 受賞機関／団体には、1 件当たり 5 万米ドルの奨励金を授与。最大3件を表彰。

2. 選考基準

- ESDが持続可能な開発を支える変容をもたらす教育として行われており、個人及び社会の変化につながっていること。
- 持続可能な開発に必要な三つの側面（社会、経済、環境）を一体的に取り扱っていること。
- イノベーションを促すアプローチを採用していること。

3. 選考手続き

- ユネスコ加盟国またはユネスコ公式NGOの推薦（各団体最大 3 件）に基づき、世界 5 地域から選ばれた国際審査員（5 名）による審査会で選考を実施。
- 選考結果を踏まえ、ユネスコ事務局長が受賞機関／団体を決定。



ユネスコ／日本ESD賞 過去の受賞団体

<過去の受賞団体>

- <2015年> Asociacion Seres (グアテマラ・エルサルバドル)
Jayagiri Centre (インドネシア)
Rootability (ドイツ)
- <2016年> 岡山ESD推進委員会 (日本)
Centre for Community Regeneration and Development (カメルーン)
National Union of Students (イギリス)
- <2017年> Zikra for Popular Learning (ヨルダン)
Sihlengeni Primary School (ジンバブエ)
Hard Rain Project (イギリス)
- <2018年> Namib Desert Environmental Education Trust (ナミビア)
Kalabia Foundation (インドネシア)
Let's Do It Foundation (エストニア)
- <2019年> Camphill Community Trust (ボツワナ)
Sustainable Amazon Foundation (ブラジル)
ハンブルク市 (ドイツ)
- <2021年> World Vision Ghana (ガーナ)
Media Development Center of the Birzeit University (パレスチナ)
Kusi Kawsay School (ペルー)
- <2023年> 金沢大学 (日本)
Long Way Home (グアテマラ)
Zimbabwe Institute of Permaculture (ジンバブエ)

